

同志社女子大学

生活科学会通信

No. 65

2024 年 6 月

同志社女子大学
生 活 科 学 会

アフターコロナのライフスタイル

吉田 香 (生活科学会会長)

令和六年元旦に能登半島地震により被害を受けられた皆様に心からお見舞いを申し上げ、被災地の一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

近年、地球の温暖化に伴う異常気象が起こっています。さらに二〇二〇年に世界的な感染症の大流行（パンデミック）が起きました。私は公衆衛生学担当ですので、十四世紀にヨーロッパでペストの大流行、十九〜二〇世紀に世界各地でのコレラの大流行等、感染症の歴史についても教えています。直近では一九一八年〜一九二〇年にスペインかぜが世界的に起きました。今回の新型コロナウイルス感染症はまさしく百年振りのパンデミックです。パンデミックは天災とは異なり、地球の温暖化同様、人類が関わって起こしています。また、発生した時、どのように対応していくかは社会全体の問題であり、個々人の問題でもあります。今回、感染拡大防止のため予防接種を受け、不要不急の外出を避け、自粛生活を送られたかと思えます。しかも当初、情報が錯綜し、不安な日々を送られたのではないでしょう。私も緊急事態宣言に伴い、突然、遠隔授業となり、助手さんの力を借りて動画等の教材を作ったり、使ったことがなかったマナビー（インターネット）を介して利用する教育支援サービスで、教材配布機能、レポート機能、小テスト機能、コメント機能等があり個別指導が可能なツール）を利用して学生とのやり取りをしたりと大変でした。しかし、この間の経験が生き、対面授業となった今でもマナビーを活用し、その折作成した動画等を使って授業を

行っています。コロナ世代の学生の ICT 関連スキルはコロナ前の学生より格段高くなっています。また、コロナ後引き続きテレワークやリモート会議を行う等、ライフスタイルに合わせた働き方ができる会社も出現しています。コロナ禍は必ずしも禍（わざわい）ばかりではなかったようです。

余暇の使い方もこれまでと変わり、新たな楽しみを発見された方も多いと思います。私はこの間、ウサギを二羽家族として迎えました。ここで私の好きなウサギについて、知っているようで知らない話をご紹介します。「ウサギは寂しいと死ぬ」とか「水を飲ませると死ぬ」とか言われています。これは全くの嘘で、ウサギは単独行動を好みます。また、水がないと脱水症状で死んでしまいます。「ウサギは目を開けたまま眠る」とも言われていますが、これは本当です。ウサギはほぼ目を開けて眠っています。目を閉じている時は非常にリラックスしています。目だけで、目が開いていても鼻がヒクヒク動いてない時は眠っています。知っているようで知らない話、ご存じだったでしょうか？

今年は十干で甲、十二支で辰にあたる「甲辰（きのえたつ）」の年で、今まで準備してきたことが新しい形となって大きく成長する年と言われています。新型コロナが感染症法の五類となり、通常の生活を取り戻すことができるようになりました。コロナにより失われた三年半と考えずに、この間に新たな身に付けたスキルや新たに見つけた余暇の過ごし方を生かし、さらに充実した生活を送りましょう。

生活科学部短信

①学部長・学科主任について

2024 年 3 月をもって、人間生活学科主任の奥田紫乃先生が任を終えられ、4 月より藤本純子先生が就任されました。生活科学部長は山本寿先生が、食物栄養学科主任は杉浦実先生が、昨年度に引き続きそれぞれ任にあたられます。

②第 38 回管理栄養士国家試験の全国の平均合格率 49.3%、全国管理栄養士養成施設（新卒）の平均合格率 80.4% に対し、本学管理栄養士専攻新卒の合格率は 97.6%（84 名受験中 82 名合格）でした。

③人間生活学科では 2024 年度入学生より、所定の科目を必要単位数修得して卒業することで、二級建築士・木造建築士の受験資格が得られるようになりました。

産官学連携による学び

～生活科学部で実施されている企業や行政と連携した実践的な授業を紹介します～

【人間生活学科2年次科目 地域計画学演習】

地域計画学演習は、具体的な地域を対象に持続的なまちづくりの提案を行う授業です。人間生活学科の学びの三本柱の一つである人と人が共に暮らす「つながり」分野の授業であり、何よりも大切に行っているのは、五感を使って地域を歩き、住民と交流し、まちづくりの本質を考えることです。

二〇二三年度からは、京都府京丹後市の「夢まち創り大学」というプログラムの支援を受け、授業を展開しています。活動地域は、市の中心的な市街地である峰山東地区。有名な観光スポットはないものの、まちの中には高校生が夢を語れる居場所、移住者と地元との接点になっているカフェ、個人でガレージをリノベーションして地域に開いているコミュニティスペース、女性が活躍するお祭り、地域を盛り上げたい！と始められたイベントなどがあり、そこには熱い思いをもって地域に貢献する人々の姿がありました。履修している学生も教員も刺激を受け、そのような現地を訪れてしかわからなかった空間・活動・人々の姿を広く紹介するリーフレットを学修成果として企画・作成しました。

リーフレットはコンセプトから議論をし、人の顔や思いが見えるものにしうということで、調査の中で感じた「つながる」「楽しむ」「パワフル」「前向き」「チャレンジ」というキーワードが伝わるようにデザインをしていきました。写真の選定、記事の作成、レイアウトも学生自らがこなっています。最終的に8ページの誌面を行政や地域の方々にお披露目をし、その成果に対して感想や意見をもらえる貴重な機会をいただきました。また、地域の魅力に改めて気づく機会になったと高評価も受け、広く住民に読んでもらうべく全戸配布がされたという嬉しい知らせを受けています。

「地域愛が伝わっていて、とてもパワーをもらえた」「楽しいを原動力にした守るべきコミュニティだと思った」「現代でお祭りを存続することの意義が学べた」といった参加学生の感想から、行政や地域と連携した実践的な授業が深い学びにつながると実感しています。今年度も、この成果を踏まえて授業を発展させていきたいと考えています。



【食物栄養科学科食物科学専攻3年次科目 食品開発プロジェクト】

本学と京都市が締結した包括連携協定（※）の一環として、主に京都の食品関連企業と連携し、学生たちが食品の生産から加工・流通までを学び、新商品の開発に取り組んでいます。昨年度は三企業様の協力を得て、学生ならではの発想で新商品の開発や販売促進方法についての実証試験に取り組みました。

昨年度取り組んだ各課題は以下の通りです。

《パートナー企業》

- ① 丸大食品株式会社チーム
テーマ…女子大生が食べたいハンバーガーコラボ商品の開発
- ② 株式会社ローヤルチーム
テーマ…バナナのマーケティング活動と商品開発
- ③ 株式会社デルタチーム
テーマ…SDGsと京都らしさを軸にしたディップ・シリーズの開発

学生達からはこの科目を経験して良かったという多くの感想が寄せられました。今年度は新たに二つの企業様にもご参画頂き、計五チームでの取り組みが進行中です。



ローヤルチームがブランディングした同女美人バナナ：「あおば」と「いろは」



デルタチームが開発したディップシリーズ



丸大食品チームが開発した柚子胡椒味のチキンハンバーグ

※本学と京都市は、二〇二〇年八月に「食」を通じた地域活性化と人材育成に関する包括連携協定」を締結し、京都市の食に関する施策と本学生生活科学部における教育・研究の充実・発展を目的に連携協力しています。

生活科学部特別セミナー

「サステナブルな衣食住を考えるⅠⅣ」

近年、包括的で持続可能な社会の構築を目指すため、SDGsを経営戦略等に取り入れる企業が急増しています。そこで生活科学部では、今回初の試みとしてSDGsに実践的に取り組んでいる企業・団体から専門家を講師としてお招きし、SDGsに関する基本的な考えや企業での取組事例等、国内外での最新の事例を学ぶ生活科学部特別セミナーを開催します。ご興味のある方は是非ご参加下さい。

Ⅰ. 五月二日(水) 一五時～一六時三〇分

SDGsを実現するための農業と食品産業

(株式会社 アグリインキュベーター 代表取締役社長 藤井滋生氏)

Ⅱ. 七月一〇日(水) 一五時～一六時三〇分

入居者と「希望ある団地暮らし」を共に育てる

(独立行政法人 都市再生機構 西日本支社 戦略調整室 片岡有吾氏)

Ⅲ. 十一月六日(水) 一五時～一六時三〇分

イオンのサステナブル経営 〈企業市民の一員としての責任〉

(イオンリテール株式会社 MD改革本部 商品戦略部 部長 横田大輔氏)

Ⅳ. 十一月二七日(水) 一五時～一六時三〇分

フェアトレード 〈お買い物とはどんな社会に一票を投じるかということ〉

(有限会社 シサム工房 取締役 人見とも子氏)

(問い合わせ先：生活科学部事務局)

〇七五―二五―四二二一

seikat-i@dw.doshisha.ac.jp

同志社女子大学 管理栄養士養成課程

創設五十五年記念シンポジウム

― 栄養士の歴史と共に歩んだ軌跡と未来に繋げる新しいカタチ ―

【内容】

本学の管理栄養士養成課程は、今年で五十五年目の時を迎えます。五十五年の歴史から学ぶとともに、先駆的な活躍をされている本学卒業生の管理栄養士を招聘し、この先さらに活躍できる近未来の管理栄養士像を考えるシンポジウムを企画しています。卒業生・在学生のみならず、高校生など、多くの方のご参加をお待ちしています。

【日時】 十月五日(土) 午後一時～三時半

【場所】 今出川キャンパス 楽真館 R四〇一教室

【講師】 赤松 利恵 氏(大学教授)

櫻井 千佳 氏(フリーランス管理栄養士)

上島 順子 氏(病院管理栄養士)

梶浦 祥代 氏(栄養教諭)

参加費：無料

事前申し込み：

QR コードからお願いします。



問い合わせ先：

生活科学部国家試験対策室

seikat05@dw.doshisha.ac.jp

カフェで「バイトしながら商品開発を学ぶプロジェクト」に参加中！

本プロジェクトも、京都市との包括連携(前頁の※)を元にした、株式会社 BAKERU が経営するみやこめっせ内カフェ ABURUでのプロジェクトです。

二〇二二年度から始まったこの学外プロジェクトに参加する私たちは、今年は「キッチンカーにあつたら買っておかず」を話し合い、一月に東別館にキッチンカーを設置して、おでんと韓国料理の販売を行いました。

おでん…販売時期が体調を崩しがちな試験前なので、栄養満点で体が温まるおでんを販売しました。出汁を理想の味に近づけるため試作を繰り返し、個々の食材に合わせた煮込み時間の調節や、原価計算、販売方法など考慮して商品開発しました。実際にお客様に喜んでいただけた時や完売した日は強い達成感が得られました。

ビビンバ…価格が安く、調理が簡便なメニューとして、最初はキンパを提案しましたが、海苔を巻く作業が手間だったため、材料がほぼ同じでより簡単なビビンバに変更しました。具材のバランスや量を工夫し、提供までの時間が短く、仕込みが簡単で手頃な価格で見栄えする商品を提供できました。

四月からは牛すじカレーとバナナスムージーなどの販売に取り組んでいて、現在第四期メンバーを募集中です。フレキシブルな後輩と一緒に働けることを、一同楽しみにしています！



二〇二四年度 ABURU プロジェクト参加学生一同
(四月現在七名)

生活科学会 大会報告

第五十七回同志社女子大学生生活科学会大会を二〇二三年七月五日（水）午後三時から楽真館四〇一教室にて川崎祐子先生を会長として開催しました。

総会では、二〇二二年度事業報告および決算報告、二〇二三年度事業計画および予算についての審議を行い、承認されました。

続いて、料理研究家 大原千鶴氏による講演会「やさしい和食でムダなく美味しく」を開催しました。

講演では、料理は毎日のことだから美味しさに影響がなければ省ける手間は省いたらよい、という心強いアドバイスをいただきました。細かいことに拘わらずシンプルに料理を楽しむことが大事であり、美味しく楽しく作ることが心も体も健康にし、みんなを元気に幸せにすることにつながるのではないかと話されました。



見学会報告 「京菓子手づくり体験」

京都の和菓子の老舗「亀屋良長」で京菓子の手づくり体験をしました。最初に和菓子の発祥と歴史についてお話をいただき、秋らしい柿と紅葉をイメージした和菓子を作りました。和菓子は昔から変化することなく作られ続けていると思っていました。時代や文化の発展とともに変化しており、現在も洋菓子とのコラボやSDGsの取り組みを行うなど進化し続けていると知りました。

和菓子を作るのは初めてで、2色の生地をくっつけてほかすという単純な作業でも、きれいにグラデーションにすることが難しく苦戦しました。見本と同じようには作れなかったですが、自分で頑張った作った和菓子は愛着が湧き食べるのがもったいなかったです。

最後に、普通は食べることでできない乾燥する前の落雁を食べさせていただきました。口の中でほろっと溶けるように崩れてとても美味しく印象に残っています。和菓子が食べたいという単純な理由で友達と参加した体験でしたが、美味しいだけでなく、ここでしかない貴重な体験をすることができました。

(SK4年)

研究会報告 「本場の美味しい紅茶を知る『贅沢な紅茶時間』」

紅茶専門家の福田万弓さんによる、本場の美味しい紅茶を知る紅茶講習会に参加しました。日頃から紅茶をよく飲んでいたので、テイステイング体験を通して世界の紅茶を知ることが出来る点に惹かれ、参加しました。

まずは、現地で撮影された写真や映像を見ながら、茶葉の製造工程や背景、文化について説明していただきました。茶葉が育つ地形などの環境により、香りに違いがあることで、飲み方にストレート向けやミルクティー向けといった特徴が分かることを知り、茶葉の可能性や面白さを感じました。そのような茶葉の特徴を踏まえ、スリランカのティーティストアの茶道具を用いて世界三大紅茶の飲み比べを行いました。繊細で慣れない工程でしたが、丁寧なレクチャーをしていただき、上手に入れることができました。また、紅茶3種類は、香り、味わい、色が全て異なり、楽しい貴重な体験となりました。

実際に、茶道具を用いながら紅茶の文化に触れることで、なかなか知ることの出来ない紅茶の深さを体感し、贅沢な心温まる時間を過ごすことが出来ました。

(二〇二三年度1卒)



『同志社女子大学生活科学』第五十七巻・内容

(二〇二四年発行)

学会では年一回会誌『同志社女子大学生活科学』を発行しています。

二〇二三年度は第五十七巻を発行しました。卒業生の方で購読ご希望の方は五百円(送料込み)をお振込みの上お申し込み下さい。折り返し会誌をお送りします。バックナンバーもございます。また、四十四巻から論文を本学のホームページ上で公開しています。なお、会員の方はどなたでもこの会誌に投稿することができます。投稿規定と原稿の書き方は生活科学会Webサイトにてご確認ください。原稿締切りは毎年十月中旬です。

〈原著論文〉

女子大学生におけるインターネット依存傾向が

インターネット広告に対する態度におよぼす影響… 諸井 克英・石田 真嬉

「メンヘラ」系アイドルの登場(Ⅰ)

少女性とメンタルヘルスの歪んだ結合… 諸井 克英・寺谷 桜花

「メンヘラ」系アイドルの登場(Ⅱ)

「アーバンギャルド」による「少女」帰郷の企み… 諸井 克英・寺谷 桜花

冷え性を形成する要因の解析

——生理的指標と主観的症状の関連性に関する研究——

…… 森 紀之・市原 千里・広瀬 絢菜・喜多乃恵留・田中 千晶

〈資料〉

評価環境の違いが景観の印象評価結果に及ぼす相違の可能性

——SD法を用いた評価—— 齋藤 朱未

数のつく食べ物 (12) 名前に数字の百がつく食べ物 (その1) …… 森田 潤司
数のつく食べ物 (12) 名前に数字の百がつく食べ物 (その2) …… 森田 潤司
数のつく食べ物 (12) 名前に数字の百がつく食べ物 (その3) …… 森田 潤司
数のつく食べ物 (12) 名前に数字の百がつく食べ物 (その4) …… 森田 潤司
数のつく食べ物 (13) 名前に数字の百一〜八百がつく食べ物 …… 森田 潤司
数のつく食べ物 (14) 名前に数字の千がつく食べ物 (その1) …… 森田 潤司
数のつく食べ物 (14) 名前に数字の千がつく食べ物 (その2) …… 森田 潤司
数のつく食べ物 (14) 名前に数字の千がつく食べ物 (その3) …… 森田 潤司
数のつく食べ物 (14) 名前に数字の千がつく食べ物 (その4) …… 森田 潤司
数のつく食べ物 (14) 名前に数字の千がつく食べ物 (その5) …… 森田 潤司
数のつく食べ物 (14) 名前に数字の千がつく食べ物 (その6) …… 森田 潤司
数のつく食べ物 (14) 名前に数字の千がつく食べ物 (その7) …… 森田 潤司

2023 年度生活科学会決算書

(自 2023 年 4 月 1 日～至 2024 年 3 月 31 日)

□ 經常会計 (単位: 円)

	項目	予算	決算
収入	会費	3,060,000	3,002,000
	寄付	0	0
	利息	150	158
	雑収入	57,000	57,000
	研究会運営費	15,000	14,500
	見学会所要費	15,000	18,000
	収入 計	3,147,150	3,091,658
支出	大会運営費	120,000	115,473
	研究会運営費	160,000	157,788
	見学会所要費	99,000	120,340
	備品費	159,500	159,500
	印刷費	600,000	642,413
	通信費	170,000	171,066
	交通費	0	0
	文具雑品費	70,000	51,053
	アルバイト費	600,000	585,180
	雑費	20,000	12,729
	租税公課	1,500	1,524
	奨学金運営費振替	0	0
	支出 計	2,000,000	2,017,066
	当年度収支差額	1,147,150	1,074,592
	前年度繰越金	11,203,482	11,203,482
	次年度繰越金	12,350,632	12,278,074

□ 奨学金会計

	項目	予算	決算
収入	利息	500	415
	寄付	0	0
	奨学金運営費	0	0
	収入 計	500	415
支出	奨学金	650,000	650,000
	支出 計	650,000	650,000
	当年度収支差額	△649,500	△649,585
	前年度繰越金	21,053,920	21,053,920
	次年度繰越金	20,404,420	20,404,335

奨学金のお知らせ

生活科学会では、本学生生活科学部に所属する学生・院生に奨学金を支給しています。募集は9月に行います。詳細は同志社女子大学ホームページにてご確認ください。

■ 人間生活学科 研究室名称変更について

人間生活学科では、学科の学びの内容や各教員の専門分野などを考慮し、各研究室の学びの内容が学内外から分かりやすくなるよう、二〇二四年度より次の5つの研究室名称を変更しました。

被服学研究室(藤本) ↓ 被服造形研究室
住居計画研究室(塚田) ↓ 居住空間研究室
住生活学研究室(奥田) ↓ 居住環境研究室
都市空間研究室(麻生) ↓ 都市計画研究室
環境計画学研究室(齋藤) ↓ 地域計画研究室

生活科学会運営委員 (2024 年度)

(敬称略)

教 員	吉田 香 (会長)	村上 恵 (副会長)	
	麻生 美希 村井 陽平	神田 知子 奥田 紫乃	倉橋 優子 米田 祐子
卒業生			
院 生			
在 学 生	人間生活	食物科学	管理栄養
	4 年次		
	3 年次		
	2 年次		
	1 年次		
事務局	尼川佐知子		

研究室だより

服飾文化（平光）研究室

服飾文化研究室は新たに12名のゼミ生が加わり新年度を迎えました。3回生はファッション産業の仕組みや流れを学び、4回生は就職活動と並行して、各々興味をもったテーマで卒業論文に取り組みます。多忙な日々を過ごしていく中で、皆が健康に、そして充実した一年を過ごせるよう、精一杯サポートし共に学んでいきたいと思っています。

（助手 佐野 一）

被服造形（藤本）研究室

被服造形研究室は4年生13人、3年生12人の計25人のゼミです。3年生では真綿のマフラーや自ら加工した布でハーフサイズのドレスを製作しました。フィールドワークでは、針仕事の文化や19世紀のドレスについて学習し、その魅力を肌で感じました。4年生では今までの学びを活かして卒業論文に取り組みます。それぞれの個性を発揮して楽しく活動しています。

（ゼミ生一同）

居住環境（奥田）研究室

今年度は12名の3回生と4名の院生を迎え、計29名のゼミ生と共に新学期をスタートしました。4回生と院生は、卒業論文と修士論文のそれぞれの研究テーマに取り組みようとしています。3回生もグループ調査の課題を決定し、調査の準備に取り掛かっています。皆様の大学生活がより良いものになるよう、精一杯サポートしていきたいと思っています。

（助手 宮田 一）

居住空間（塚田）研究室

本研究室は今年度、新たに10名の3年生を迎え入れ、22名（4年生12名）になりました。これからゼミ生の皆様は、塚田先生のご指導の下、それぞれの研究や課題、就職活動に取り組んでいきます。コロナ禍も明け、より活発に様々な活動ができるようになった今、皆様が充実した一年を過ごせるようにお手伝いいたします。

（助手 水野 一）

プロダクトデザイン（村井）研究室

本研究室は今年度12名の3回生を迎え、計25名になりました。卒業年次の4回生は論文・制作のテーマに向き合い、日々悩みなながらも一生懸命研究に励んでいます。3・4回生の一部メンバーは、伝統工芸に携わる国際プロジェクトへ参加する予定です。昨年度よりも賑やかになった研究室で、私も助手としてより一層のサポートができるよう努めて参ります。

（助手 江口 一）

生命倫理学（小崎）研究室

生命倫理学研究室では、今年度は、4年次生5名でゼミ活動を行います。各々、自らの研究テーマと真剣に向き合って様々な課題をこなし、時にはディベートや相互議論も交えながら学びを深めていきます。私も助手として、微力ではありますがが学生を精一杯サポートできるよう頑張ります。

（助手 田中 一）

地域計画（齋藤）研究室

今年度より、環境計画学研究室の名称が地域計画研究室に変更され、また新たにゼミ生、大学院生を迎えてスタートを切りました。3回生は文献やグループワークを中心に、4回生と院生は論文に向けて調査を進めるなど、各自の研究テーマに積極的に取り組んでいます。学生の皆様が実りある一年を過ごせるよう、私も微力ながら精一杯サポートしていきたいです。

（助手 西澤 一）

都市計画（麻生）研究室

今年度は3回生8名を迎え、15名となりました。今年度も3回生は奈良きたまちエリアを対象地とした民学官連携のまちづくりプログラムに参加し、地域課題解決に向けての提案を現地で行います。また、4回生は卒業論文執筆にむけて研究テーマを絞り、先行研究

調査や資料収集を進めています。皆様がより良い環境で学びを深められるよう、私も努めて参ります。

（助手 黒木 一）

ユニバーサルデザイン（土井）研究室

この春初めての卒業生を送り出し、新たに15名の3年生を迎え、計28名のゼミ生と共に本年度が始まりました。本研究室の4年生は京都市内の観光触知図製作や視覚障がい者に配慮した触覚情報付きメイクアップビューティーテキストの検討など、各々の研究に取り組んでいます。私も土井先生と共に、微力ながら精一杯サポートいたします。

（助手 山田 一）

調理学（村上）研究室

本研究室は食物科学専攻の学生7名、管理栄養士専攻の学生3名と、村上先生、助手の中野さんの12名で活動しています。今年度は3チームに分かれ、酒の調理効果とトマトの冷凍処理、アルカリイオン水を用いた各種麺の物性変化についての研究を行っていく予定です。専攻の垣根を超えて、1年間力を合わせて頑張っていきたいと思います。

（ゼミ生一同）

調理科学（真部）研究室

今年は9名のゼミ生が3チームに分かれ、現在それぞれのテーマ

ごとに取り組みを始めています。全国のうどん出汁をテーマとした2チームと、官能評価チームです。就活で忙しい中ではありますが、研究室は何かとにぎやかな毎日です。助手1年目で慣れない部分もありますが、先生や学生のサポートに努めてまいります。今年度も本研究室をお願いいたします。

（助手 丹下 一）

栄養教育学（片井）研究室

葉桜の季節となり、日中は汗ばむ日もでてきました。新年度が始まってから早一か月、授業に実習にと慌ただしい日々を過ごしています。今年から助手として再び同志社女子大学に通わせていただくことになり、嬉しさ感慨深い気持ちを感じてやみません。これまでの経験を活かしながら学生の学びを全力でサポートしてまいります。

（助手 和田 一）

実践栄養学（小切間）研究室

今年のゼミは、学童期、妊娠期、高齢期のライフステージに分かれて、研究を行っています。ゼミ生同士で助け合いながら、コツコツ頑張っていきたいと思っています。親身になって相談に乗ってくださる小切間先生、困った時に助けてくださる助手の村上さん、共同研究先の先生方にご指導いただきながら、実りある1年にしたい

と思います。

(ゼミ生一同)

乙 公衆栄養学研究室

(ゼミ生一同)

基礎栄養学(鈴木) 研究室

本研究室は今年度、ゼミ生(食管10名、大学院生2名、助手の古家さん、鈴木先生の14名で研究活動をスタートさせています。基礎栄養学の知識を活用し、腸機能の維持・回復メカニズムに関わる5つの研究課題に取り組みます。鈴木先生、古家さん、大学院生のお二人の優しく手厚いサポートを頂きながら、充実した1年間にしたいと思います。(ゼミ生一同)

公衆衛生学(吉田) 研究室

今年度の公衆衛生学研究室は10名のゼミ生を迎えスタートしました。昨年度に引き続きミネラルに関する研究を三つのグループに分かれて行っており。現在は各自が論文検索、ゼミ発表に励んでおります。卒業研究に加え就職活動や国家試験の勉強と忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、実り多い時間になるよう、微力ながらサポートして参ります。

(助手 川田)

公衆栄養学(今井) 研究室

いつも元気でまいにち楽しくいろいろな活動をとにも成長しながらもより上がります

室ですので、お互いに助け合い、協力しながら、学生の皆様が楽しく学べる環境や研究体制を構築していきます。どうぞ宜しくお願い致します。

食品物性学(山本) 研究室

今年度は10名の学生が本研究室に配属されました。実験操作に慣れるための予備実験を終え、最近では本研究室の主テーマである澱粉糊化について勉強しています。今後は4つの研究テーマに分かれて、自分たちで実験計画を立てながら研究を進めていきます。助手1年目ですが、ゼミ生がスムーズに研究できるよう、精一杯サポートしていきたいと思っています。

精一杯サポートさせていただきます。本ゼミ卒業生の皆さま、西村先生はあと2年でご退官されますので、ご挨拶を考えておられる場合はどうぞお越しください。

(助手 辻)

生化学(倉橋) 研究室

今年度は食管3名のゼミ生を迎え、明るく和やかな雰囲気ですスタートしました。いつも元氣な彼女達を見ていると、私も元氣を貰えるような、そんな気がしております。現在ゼミ生は、倉橋先生の熱心なご指導の下、実験計画を立てつつ予備実験を行っています。彼女たちにとって充実した一年となるよう、微力ながらお手伝いさせていただきます。

(助手 小倉)

森田

食品栄養学(森) 研究室
本研究室は、ゼミ生10名、大学院生1名で新年度をスタートしました。真剣に研究に取り組んだり、楽しくお喋りをしていたり、森先生がお抹茶を立てていたり、野球の素振りをしていたり、いろいろな姿を見ることができ、助手の私も楽しいです。私自身も日々成長しながら、来年から新たな一歩を踏み出す彼女たちを最大限サポートしていきます。

(助手 森田)

私にとっても助手生活最後の一年。楽しく、笑顔溢れる毎日になることを願っています。またゼミを通して大きく成長できるよう精一杯サポートしていきたいと思っています。

(助手 樋口)

臨床病態学(田中) 研究室

本年は、新しい助手さんとして葉山さんが着任されました。ゼミ生が10名、大学院生は5名です。あわただしい日々ですが、楽しい1年となりそうです。テーマは、疲労や意欲や自律神経などさまざまなですが、充実した学生生活になるよう、準備したいと思っています。皆様、よろしくお願い申し上げます。

(田中雅彰)

臨床栄養学(奥村) 研究室

着任後3年目を迎えました。第2期生8名(4年生)、大学院生5名(修士1年生)、尾上 助手の15名体制になりました。まだまだ新しく始まったばかりの研究

(助手 岡田)

食品加工学(西村) 研究室

今年度が食品加工学研究室は最後のゼミ生で記念すべき30期生です。食物4名、食管1名が各々実験に励んでおります。結果に期待をしつつ、学生最後の貴重な時間を有意義になるよう、微力ながら

(助手 橋本)

運動生理学(米田) 研究室

今年度、運動生理学研究室には10名のゼミ生が所属しています。明るく、元氣、個性豊かな顔ぶれです。運動生理学について興味深く学び、卒論研究に取り組んでいます。課題をこなす大変さがありますが、学ぶ喜びを忘れず、研究を楽しみたい。学生生活最後の1年、皆で励まし合い、協力しながら、充実した日々を過ごしたいと思っています。

(ゼミ生一同)

生活科学会第五十八回大会案内

日時 七月三日(水) 午後三時
場所 楽真館一階ラーニング・コモンズ

一、総会

会長挨拶

二〇二三年度事業報告および決算報告

二〇二四年度事業計画案および予算案審議

二、講演会

「衣装から読み解く自分の
長所の見つけ方・伸ばし方」

茅野しのぶ氏 (株式会社オサレカンパニー取締役
兼 クリエイティブディレクター)



これまで視覚的に誰かの視線に触れる様な衣装作りを意識しながら行ってきました。着用者の一番の魅力を引き出すためにその人の長所を知り、見る人にも好印象を残し、人気や評価に繋げていく。それは特別な才能があるわけではない。私自身にとっても同じで、自分の長所を知り、それを意図的に伸ばすことにより周りからの需要を生み、評価を得るという事が一番の近道ということを若い頃に実感し自分の財産となっていました。これから社会で活躍していく皆さんにも実践しやすく、周囲から評価を得られやすい環境の作り方をお伝えしていきます。

＜講師紹介＞

AKB48創設当初より総合プロデューサー秋元康氏の下で衣装担当として活動。

その後、デザイン・衣装・ヘアメイクなどの事業を担うオサレカンパニー社のクリエイティブディレクターに就任。メンバーの個性を引き出すデザインと豊富なバリエーションで、これまでに携わってきた衣装はおよそ四万着。AKB48以外にも、LLOVEや#ME・#JOYといったアイドルから、声優、コスプレイヤー、25次元アーティストの衣装、さらに近年では学校制服・医療制服のプロデュースにも尽力。

参加費無料・要申込
【受付締切：6/26(水)】

見 学 会

テーブルマナー(フランス料理)を学ぶ

内 容 ホテルスタッフの方から解説をして頂きながら、フランス料理のコース(6,000円相当)をいただきます。この機会にフォーマルな場面のテーブルマナーを身に付けませんか。

日 時 2024年11月2日(土)
12:00~14:00

場 所 都ホテル 京都八条
〒601-8412 京都市南区西九条院町17
(京都駅八条口)

集合時間 11:40に宴会場 陽明殿・東(地下1階)に集合

参加費 1,000円

定 員 30名

受付期間 2024年10月7日(月)~10月11日(金)
(要申込、申込多数の場合抽選となる可能性があります)

問い合わせ先

同志社女子大学生生活科学会
〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入
(E-mail) hlgakkai@dwc.doshisha.ac.jp
(TEL) 075-251-4211
(Web サイト)

<https://hlgakkaidwcla.com/>



研 究 会

京友禅型絵染め体験

内 容 京町家を活用した工房で、京都府一帯で作られる伝統工芸品「京友禅」の染め技法の一つである、「型絵染め」を体験します。模様が彫られた型紙を使用し、自身が選んだ図を構成し、染料を生地に刷り込みオリジナルトートバッグとベンケースを制作します。また、制作物はお土産として持ち帰ることができます。

日 時 2024年11月30日(土) 13:00~14:30

場 所 京友禅体験工房 丸益西村屋
〒604-8276 京都市中京区小川通御池南入る

・市バス 「堀川御池」下車 徒歩5分
・電 車
地下鉄「烏丸御池」4-1番出口から徒歩9分
地下鉄「二条城駅前」2番出口から徒歩5分

集合時間 12:50までに現地集合

参加費 500円

定 員 30名

受付期間 2024年11月11日(月)~11月15日(金)
(要申込、申込多数の場合抽選となる可能性があります)

申込方法

大会講演会・研究会・見学会のお申込みは、生活科学会 Web サイト内申込フォーム、E-mail、ハガキのみとさせていただきます。必ず、氏名・住所・メールアドレス(お持ちでない方は電話番号)・学籍番号もしくは卒業年を明記してください。